

# 宮柁二記念館だより

2015.3.10

第 42 号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



## 次期企画展示のテーマ

あらためて戦争を考える機会に

当記念館は開館から二十三回目の春を迎えるが、毎年この時期には「次回の企画展示のテーマ」について悩むことになる。二十年を経た施設ではあるが「運営の基本方針」が定かでないことは否めず、専任職員のない中で長期展望をまとめきれないままとなってしまっている。財政事情は厳しいが、「今ある施設をどう生かすか」は、市の特長を生み出すうえでも重要なことと思う。

さて、「展示の方針」であるが、当記念館はスペースが少ない施設ではあるが、膨大な収蔵資料をもっている。この収蔵品について五年あるいは十年を一スパンとして「展示テーマ」を設定し、これまでに展示できなかった資料のほか、新たに発掘された資料を加えながら展示にメリハリを付け、多くの皆様から来館いただくように工夫しては、と考える。

今年終戦から七十年。マスコミも年頭からいろいろな場面で特集を組んでいる。あらためて平和の意義が問われているように感じられる。これまでも「戦争と柁二」に関する展示をしてきてはいるが、節目に当たる今回は、また別の観点からとらえてみようという準備を進めている。戦後に育った「戦争を知らない世代」が過半を占めることとなった今日、もう一度考えてみるためにも……。

# 報告

## 第二〇回宮柁二記念館全国短歌大会

# 二〇二〇年五十一首の応募

### 【一般の部】

最優秀賞

まっ青な空がそおっと持ち上げたガーゼのような初夏の雲

谷池宏美

選者賞 (三井 修選)

ヤブラカシ咲いてさら地は草の海難破している土蔵が白い

吉崎美沙子

選者賞 (田宮朋子選)

七メートルの雪庇落しの先揺れて上向ける顔に雪降り掛かる

関 泰邦

### 【ジュニア部門(小学生の部)】

選者賞 (三井 修選)

読書はねいろんな世界へ飛びこめるおかしの国へ出発進行

長谷川雅奈

選者賞 (田宮朋子選)

秋の日に一人で帰る電車内さびしい気持ちがスピードを増す

村上善将

### 【ジュニア部門(中学生の部)】

選者賞 (三井 修選)

楽器たちぼくだぼくだと主張するけれどホールには一つの音楽

浅野真太郎

選者賞 (田宮朋子選)

本テレビパソコン電話カメラ辞書今ではそれが片手で持てる

滝澤晋伍

### 【ジュニア部門(高校生の部)】

選者賞 (三井 修選)

花と人似ているところあるんだよ異なる個性色や形や

阿部麻貴

選者賞 (田宮朋子選)

朝五時に弁当作る母さんの台所の音聴いている枕

多賀大悟

## 第20回 短歌大会 応募状況

区分	応募作品数	応募者数
一般の部	919首	388人
ジュニアの部	11,132首	5,680人
(小学生)	3,099首	1,587人
(中学生)	4,596首	2,293人
(高校生)	3,437首	1,800人
総数	12,051首	6,068人

第二〇回全国短歌大会は、選者に三井修先生(塔短歌会)、田宮朋子先生(コスモス短歌会)をお迎えして行いました。総数二二、〇五一首にのぼる過去最高の応募で、特にジュニア部門の応募が急増しています。多くの学校で短歌を学習している成果と考えられます。

平成二十六年十一月十六日には、堀之内公民館を会場に三百人を超える参加者をお迎えして、盛大な大会を開催することができました。

平成二十七年度も第二十一回となる短歌大会を予定しています。五月一日から応募受付を開始し、一般の部は七月三十一日、ジュニア部門は九月八日が締め切りの予定です。なお、表彰式については、これまで第三日曜日だった開催日を土曜日に変更できるかどうか、検討しています。

節目の二〇年をこえて、これからも大きな大会にしていきたくと考えています。大勢の皆様の参加をお待ちしています。



【選者のことば】

## 心をうたう

田宮 朋子

宮柁二記念館全国短歌大会の選者をつとめさせていただき、光栄に存じます。私は当記念館内のコスモス魚沼勉強会の会員です。海外を含めて全国から寄せられたたくさんの方の短歌を拝見し、身が引き締まる思いで選歌いたしました。

一般部門の作品の多くは、生きていく人間のたしかな心の動きが作品の芯になっていると感じました。「生の証明」という言葉で示された宮柁二先生の短歌観が、逝去後二十七年余りたっても受け継がれていて、それがおのずと応募作品に反映しているようです。私はこの大会に毎年出席していますが、変わらない素材の

作品がある一方で、以前とは違う今の時代が表れている作品もあり、「コスモス創刊の辞」の「われわれがかなる時代の生命者であるかを、作品発想の基底において自覚していたとおもいます」という言葉を思いあわせました。

ジュニア部門には一万一千首を超える作品が集まりました。小学生の作品は、素直で純粋でほほえましく、楽しく読みました。子どものが、年齢にふさわしい言葉で表現されている作品に出会うことができました。中学生の作品からは、心身ともに急成長する世代のエネルギーを感じました。

### 田宮 朋子 (たみやともこ)

昭和25年、新潟県生まれ。東洋大学卒業。昭和55年、コスモス短歌会入会。平成3年、コスモス内同人誌「棧橋」に参加。平成14年、第48回角川短歌賞受賞。平成15年、第49回O先生賞受賞。同年、第50回コスモス賞受賞。平成18年よりコスモス選者。現在、宮柁二記念館運営委員、現代歌人協会会員、NHK学園講師。歌集『雛の時間』、『星の供花』、『雪月の家』。



【選者のことば】

## 人生の重さと眩しい未来

三井 修

宮柁二は私の最も好きな歌人の一人です。理由はいくつかあるのですが、一つは、柁二は製鉄会社に勤務するサラリーマンであったということです。私もまた商社に勤務しながら短歌を作ってきました。どのような立場であれ、短歌を作っていくということは困難が伴うことではあります。民間の営利企業に勤めながらというのは、それなりの苦しみが付きます。柁二は四十八歳で会社を退職して、短歌に専念しますが、私も五十一歳で退職しました。また、私は石川県の出身で、新潟県と石川県は間に富山県を挟みますが、「北陸信越」と言われるように、共に日

本海に面した雪国出身です。そんな事情もあって、柁二には大変親近感を持ってきました。従って、今回、第二十回宮柁二記念館全国短歌大会の選者を務めさせていただいたことは、私にとって大きな喜びでした。

一般の部は優れた作品が多いと思えました。素材も職業の歌、家族の歌、自然の歌、恋の歌、回想の歌等々、広範囲にわたっていました。また、作者がこれまで積み重ねてきた人生の重みを感じさせる作品もあり、若者のみずみずしい未来を感じさせる作品もありました。選歌作業は大変な中にも楽しさがありました。

一方、ジュニアの部はその数の多

さに圧倒されましたが、高校生、中学生、小学生、それぞれの段階の感情や生活に触れることができ、これもまた楽しい作業でした。高校生は勉強や部活、恋の悩みなどが多かったと思いますが、中に両親や祖父母を思いやる作品が散見されたことはうれしかったです。中学生の作品では自我に眼覚めた作品に注目しました。小学生は自然に対する新鮮な感動の作品に惹かれました。選考する数が決められているので、このような結果になりましたが、入選しなかった作品の中にも素晴らしい作品が多かったので、落胆する必要はありません。

### 三井 修 (みついおさむ)

1948年金沢市に生まれ、能登で育つ。東京外国語大学77期7語学科卒、一橋大学大学院言語社会研究科中退。商社勤務の後、中東経済研究所上級研究員、日本I社社長-経済研究所研究主幹、東京外国語大学非常勤講師等を歴任。商社勤務時代に中東駐在延べ六年。現在、塔短歌会選者、北陸中日新聞短歌欄選者、NHK学園講師、朝日加チャ-講師他。

著書として歌集『砂の詩学』(現代歌人協会賞)、『洪水伝説』、『アステカの王』、『風紋の島』(日本歌人クラブ賞)、『軌跡』、『砂幸彦』、『薔薇図譜』(泉鏡花記念金沢市民文学賞)、『海図』(島木赤彦文学賞)他、評論集『永田和宏の歌』



和気あいあいと学び合う教室

# 記念館 短歌教室



宮校二記念館の取り組みとして「記念館短歌教室」があります。毎年四月に参加者を募り、年間九回の教室を開催しています。平成二十六年度は、県内外から四〇名の方が教室に登録され、新発田市在住の歌人・岡崎康行先生(コスモス短歌会選者)から指導していただいています。教室は、当日一日だけ参加する

ものではありません。教室で検討する短歌を事前締切日までに一首提出し、その歌をまとめて岡崎先生に送り、教室日までに添削していただきます。また、受講生には投稿者の作品をまとめた詠草を送り、その中で自分が良いと思った歌五首を選んで記念館に提出します。なお、事前選は、誰の歌かわからないよう名前を伏せて行います。短歌教室当日は、二十名前後の皆さんが参加され、それぞれの付けた点数を集計した表と岡崎先生の添削を資料として、お互いに評価し

## 今年度の各回の高得点作品を紹介します

降り立ちてゴム長ぐつから裾を出す新潟駅の喧騒のなか	菲澤 文隆
ほんのりとぬくむ山墓あらひをりうぐいすのこゑひとりじめして	吉田 初江
板の間を素足で歩き夏を知る私一人の歳時記なりき	五十嵐トシエ
ランドセル背なに踊らせ駆けてゆく下校の子らは夕立のなか	松井 君子
地下水の温もりたれば朝晩は近づく秋をはだにかんずる	清塚 マス
幼子の眠りあるらしミニカーが二つ墓前に供へてありぬ	松井 君子
「冷えるねー」と夫の遺影に語りかけ寒露の朝熱き茶供ふ	松井 君子
幼児は吾の居るのを確かめてにこっと笑みてまた眠り入る	上村 美恵子

あいます。名前は最後まで伏せているため、先輩や初心者の別なく自由に発言ができ、教室は和気あいあいの雰囲気で行進していきます。岡崎先生の添削はどれも鋭く、表現の奥深さにいつも驚かされます。また、受講生が選ぶ高得点の歌と岡崎先生の選ぶ歌が同じにならないことも多く、短歌を学ぶことのおもしろさを感じることもあります。

この間、参加いただいている皆さんの中には、まったくの初心者から始めて、短歌大会に何度も入選された方もいます。一年を通しての活動は、最初は大変かもしれませんが、充実して学ぶことができると思います。短歌に興味のある方は、ぜひ一度のぞいてください。受講生ともどもお待ちしております。

### ◎「短歌教室」の流れ(予定)

宮校二記念館では平成二十七年度も短歌教室の実施を予定しています。

4月19日 申込と同時に短歌一首を記念館に提出。

5月9日 送られてきた詠草の中から良いと思った作品五首を選び、記念館に提出。

10日 第一回短歌教室。  
会場：宮校二記念館 研究室  
(十時～十二時)

17日 次回教室のための短歌一首を記念館に提出。

※以降は各月同様のスケジュールで行進します。

### ◎年間九回を三期で実施

一期 5月、6月、7月

二期 9月、10月、11月

三期 (平成28年) 1月、2月、3月

## 平成 26 年度事業報告

今年度は、魚沼市誕生 10 周年を記念した企画展、第 20 回を数えた短歌大会などを中心に、各種の事業を実施しました。

### 26 年度実施事業について

- ◎5月24日  
魚沼市制施行10周年記念企画展  
「魚沼市における宮柵二の足跡」展  
オープンセレモニー（テープカット）  
記念講演「宮先生の思い出」 講師 摩尼久晴氏
  - ◎6月28日～8月31日  
第19回全国短歌大会 ジュニア部門特別賞展
  - ◎7月20日  
講演会「宮柵二を語る」 講師 岡崎康行氏
  - ◎8月22日  
ジュニア短歌教室 講師 短歌教室司会者
  - ◎11月16日  
第20回宮柵二記念館全国短歌大会  
選者講評 三井修氏 田宮朋子氏
  - ◎11月16日～12月19日  
第20回短歌大会選者・ジュニア部門特別賞受賞者展
  - ◎1月18日  
短歌セミナー「作歌のヒント - 柵二作品から学ぶ -」  
講師 田宮朋子氏
- 実行委員会により以下の事業が行われました。
- ◎8月5日～8月17日  
小宮山政男遊戯絵本「よく見ればこの世は浄土」展
- 市内中学校の短歌出前教室に、短歌教室の三名の方が講師としてうかがいました。
- ◎7月7日 守門中学校
  - ◎9月10日 堀之内中学校

### 短歌セミナー

1月18日、当館主要事業である短歌セミナーが開催されました。

今回は「コスモス」選者でもある田宮朋子先生を講師にお迎えし「作歌のヒント」-柵二作品から学ぶ-と題し、講演いただきました。「何を、いかに詠うか」として、誰もが持っている「短歌の核としての感情」と推敲の大切さについて、「歌作るとき思ひ出す言葉一つ泉は自分の足元に湧く」（武田弘之）などを例にわかりやすく説いてくださいました。



当日は朝から風雪が強く、荒れ模様の天候となりましたが受講者は20名を超え、盛況のうちに終わることができました。

### 第20回大会特別賞受賞者展

第20回宮柵二記念館全国短歌大会で選者をお勤めいただいた三井修先生、田宮朋子先生の作品の色紙と、今大会で特別賞を受賞された皆様の受賞短歌の自筆作品を11月16日から12月19日まで、約2カ月にわたり、記念館の一階ホールで展示させていただきました。

降雪時期と重なりましたが、ご来館いただいた方々からは、小学生から一般までの作品について、それぞれに見入っていらっしゃる姿が印象的でした。

### お知らせ

#### 日本経済新聞で宮柵二に関する記事が連載されました

平成27年2月から5回にわたって、ノンフィクション作家の梯久美子さんが、日本経済新聞に「宮柵二 - 戦場からの手紙」と題して、歌集『山西省』と書簡集『砲火と山鳩』に関する記事を連載されました。

平成二十七年年度

### 宮柵二記念館 事業計画

企画展示では、戦後七〇年にあたり「戦争と柵二」をテーマに行う予定です。また応募が増えている全国短歌大会についても、円滑な運営による成功を目指します。

#### ◎平成二十七年年度 企画展示

- ・テーマ 「戦争と柵二」
- ・期間 五月十六日（土）～

#### ◎第21回全国短歌大会

- ・募集開始 五月一日（金）
- ・締め切り

一般の部 七月三十一日（金）

ジュニアの部 九月八日（火）

#### ・内容

作品は二首 一、〇〇〇円

海外からの応募、ジュニア部門

（高校生以下）は無料。

#### 【短歌大会】（表彰式）

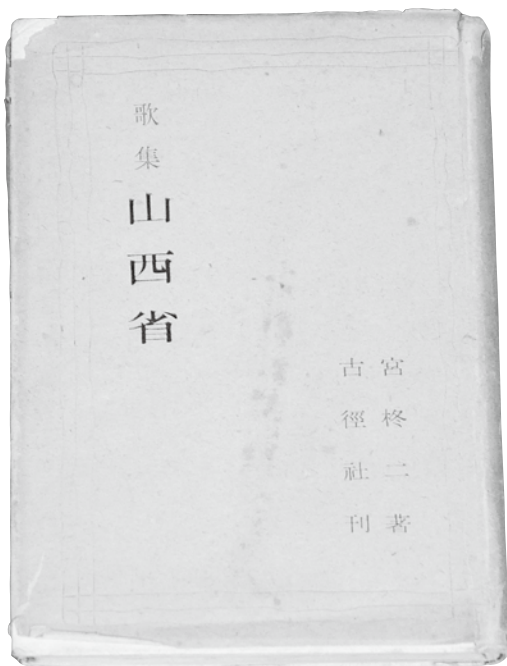
・日時 十一月十四日（土）

・会場 堀之内公民館

（魚沼市堀之内一三〇）

この他にも、「記念館短歌教室」や「ジュニア短歌教室」など各種事業を行っていく予定です。

# 『山西省』 宮柎二歌集



## 宮柎二記念館収蔵資料紹介 NO. 42

『山西省』は主に戦地での短歌をまとめた歌集です。戦後、GHQの検閲によりしばらくは出版できず、昭和24年に刊行されました。過酷な戦場の様子が一兵士としての視点で描かれており、貴重な文学作品として、今でも多くの方から高い評価を得ています。

### 新資料紹介

平成26年度も貴重な資料を寄贈いただきました。深く感謝申し上げます。今後も大切に保存させていただきます。

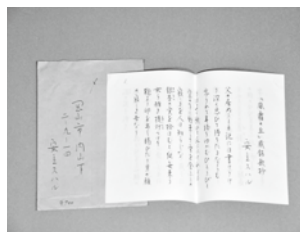
#### 安立スハル原稿

平成二十六年度企画展オープニングセレモニーの記念講演会で講師をされた摩尼久晴さんから寄贈いただきました。

安立スハルはコス

モス創刊から参加していた女流歌人です。この原稿は、昭和五十二年に刊行された中山礼治の歌集『風霜の丘』の中の感銘歌をまとめたもので、コスモス新潟支部報「河」に寄稿されました。

この他にも、高林和子さんから、宮柎二「萬葉集講座」の内容を山崎千鶴氏が筆記し製本したものの四冊を寄贈いただくなど、多くの方から寄贈していただきました。



#### 「友の会」からのお知らせ

宮柎二記念館では、会員を募集しています。年会費は1,000円です。

くわしいことは、宮柎二記念館へお問合せください。

宮柎二記念館だより 第42号

発行 2015. 3. 10

問合せ 宮柎二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内 117-6)

TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp

ホームページ <http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji>

※宮柎二の「柎」のつくりにある「冬」の字の下の点は、本来、はねる表記ですが、通常の書体には無いため、現在、表記方法について準備をしています。今号では従来の表記となってしまいましたが、ご容赦願います。